

SSIS 秋季研修旅行(報告)—スリランカへの旅 2018—

SSIS 文化活動委員会 島 亨

2018年は、伝統的な親日国のスリランカ民主社会主義共和国(1948年に独立、1972年に新憲法制定して英連邦内自治領セイロンから完全独立してスリランカ共和国に改称)を訪問した。1951年のサンフランシスコ平和会議で同国の初代大統領が『憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む』という仏陀の言葉を引用、賠償請求権を放棄し、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴えてくれたことは有名である。そして、1952年の国交樹立以来、貿易、経済・技術協力を中心に良好な関係が続いてる。現地での研修は、ジェットロのコロombo事務所、及び70社を超す日系進出企業のうちの一社で、滋賀県に本社がある湖北工業、KOHOKU LANKA(PVT)LTDを訪問した。

九つの世界遺産のうちシーギリア・ロック、ボロンナルワ、タンブッラ石窟寺院など著名な遺跡、寺院を見学し、現地ガイドのシリさんの懇切丁寧な説明、助手のクマさん、巧みな運転の運転手のグッディさん達のお蔭で、極めて有意義な時間を過ごすことができた。

手を合わせての挨拶「アーユーボーワン」も身についてきた。

記

日程;2018年11月26日(月)~12月2日(日)

参加者;(順不同、敬称略)

青木昭明、池野成雄・富士江、梅田治彦、梅田靖子、川西 剛・栄津子、金原和夫・美智子、三宅信弘、川端章夫・佳代子、石川静香・則子、高橋令幸、野澤滋為・恭子、島 亨・恵子、(19名)

現地ガイド;N.H.M.Rathnasiri(シリさん)

独特の日本語ながら、国際ガイド免許2級を持ち、内外の知識が豊富で歴史上の説明が具体的で、疲れたときには現場の雰囲気とを和ませてくれた。

第1日;11月26日(月)

成田空港国際線第2ターミナル3F 北団体カウンター9:00 集合。

午前; 成田 11:20(スリランカ航空 UL455)17:10 コロンボ (直行・飛行時間約9時間20分)

午後; コロンボ空港に現地ガイド N.H.M.Rathnasiri(シリさん)が出迎え、ヒルトン・コロンボへチェック・イン。

宿泊; ホテル・ヒルトン・コロンボ(コロンボ)



—コロンボ空港・シリさん/専用バス—

直行便とはいえ、9時間を超える長旅にただただ横になりたかった。

第2日;11月27日(火)

午前中;ジェトロ・コロンボ事務所訪問

午後;湖北工業(KOHOKU LANKA(PVT)LTD)訪問

市内の交通混雑を予想して5時半モーニングコール、6時半朝食、7時半ホテル出発の臨戦態勢をとる。

宿泊;ホテル・シーギリヤ(シーギリヤ)

●JETRO コロンボ事務所

糸長真知所長、井上元太氏から『スリランカのビジネス環境と日系企業動向』と題して丁寧な説明を受けた。

国土は北海道の約8割、人口2,000万人強、民族的にはシンハラ人75%、タミル人15%、ムーア人9%、宗教的には仏教徒70%、ヒンドゥー教徒13%、イスラム教徒10%、カトリック教徒7%、日系企業は71社という。

約10年続いたスリランカ内戦が2009年に“ラージャパクサ停戦”して回復途上にあるが、政権の不安定さと、最近、中国の“一路一帯”の“負の一面”が色濃く出始めているという。国策として、輸出振興を図っているが、この戦略を推進する環境整備が課題。輸出製品No.1は繊維製品、No.2が紅茶。イメージとして南アジアのシンガポールを目指している。地図おたくの三宅さんが職員に現在地を確かめていたが、JETROの横のグラウンドでクリケットの試合をしていたが、職員もクリケットはスリランカの国民的スポーツだと言っていた。

混雑するコロンボ市内を通過しながら途中 Ramada Inn でランチをとり空港近くの経済特区へ向かう。

●KOHOKU LANKA(PVT)LTD (湖北工業)

鈴木基司社長、瀬戸正則常務、ほか4部長から琵琶湖の湖東・長浜市にある本社と、ここ経済特区(SEZ)にある KOHOKU LANKA(PVT)LTD の説明を聞いた。当初、男性のみとしていた説明、見学も、別室で女性への丁寧な対応をしていただき、全員と一緒に工場見学をすることができた。

この会社は光通信ケーブル端末部品を製造している。出荷先は日本の親会社、米国、英国等の海底ケーブル通信機メーカーであるが、性能の高さと30年間の保証をする信頼性により500名以上の社員を抱えて安定的な経営をしていることに感銘を受けた。

工場はカンバン方式を採用して、教育、食堂、送迎バス等も完備していて、清潔で、労働意欲も高く、従業員の離職率も低いという。

日本では忘れかけている良い企業風土を思い出させてくれた。



—JETRO コロンボ事務所—



—KOHOKU LANKA(PVT)LTD—

工場見学のあとは、一路シーギリヤへ向かう。舗装はされているものの曲がりくねって混雑する道を、ご当地特有の“小型三輪自動車 TUKTUK”の“見事な割込み運転”をかわしながら我らが運転手“グッディさん”も頑張って進んでシーギリヤへ到着した。

ホテル・シーギリヤは自然保護区・ジャングルの真ん中にある緑いっぱいの保養地である。



—ホテルの夕食・プールからシーギリヤロックを見る—

第3日;11月28日(水)

《シーギリヤ⇒ポロンナルワ⇒シーギリヤ》

午前:シーギリヤ・ロックへ。密林の中にそびえ立つ伝説に彩られた岩山“シーギリヤ・ロック観光”(岩山の中腹に描かれた不思議な微笑みをたたえた美人フレスコ画シーギリヤレディーや頂上にある王宮跡など)。

午後:歴史の古都ポロンナルワへ。ポロンナルワ市内観光(ポロンナルワ仏教のかつての中心地クォードラングル、岩肌に掘られた3体の大仏像ガル・ヴィハーラ、真っ白な仏塔キリ・ヴィハーラ、宮殿跡など)。

宿泊:ホテル・シーギリヤ(シーギリヤ)

●シーギリヤ



—摩訶不思議なシーギリヤ・ロック—



—霰がかかっている神秘的なロックに登る—

朝の岩登りの方がいいとのシリさんの判断で午前・午後を逆にしてシーギリヤ・ロックへ向かう。

気温が高くなる午後の岩登りは大変であることが後刻分かりシリさんの好判断に感謝する。



—小雨を避けて洞窟に—



—シーギリヤ・ロックの頂上で“万歳!”—

●ボロンナルワ



—ガル・ヴィハーラの立像、般若像—



—宮殿跡の前で—

ボロンナルワは10～12世紀のシンハラ王朝の首都で、仏教都市の栄華を伝える大遺跡群がある。気温が高くなり動作が鈍くなってきた。

第4日;11月29日(木)

《シーギリヤ⇒ダンブラ⇒キャンディ》

午前: バティック工場やスパイス・ガーデン、石窟の中に残る色彩豊かな壁画や仏像の美しさで知られる“ダンブラ石窟寺院”を観光した後、セイロン最後の王朝が置かれた古都キャンディへ。

午後:キャンディ市内観光。4世紀にインドから運ばれた仏陀の歯を祀ったスリランカの代表的“名刹・仏歯寺”、キャンディ・マーケット、ペラデニア植物園など。

夕方:キャンディ王朝時代の宮廷舞踊キャンディアダンス観賞。

宿泊;ランドホリー・リゾート(キャンディ)

●ダンブラ石窟寺院

スリランカ最大の石窟寺院は、岩山の5つの洞窟に極彩色の壁画や多数の仏像が造られている。何世紀も前に彫られた美しい仏像を拝むにつけ宗教の偉大さに敬服せざるを得ない気持ちになる。



—石窟寺院の極彩色の壁画や仏像—



—石窟寺院の極彩色の壁画や仏像—

●スパイス・ガーデン



—スパイス・ガーデンで案内を聞く—



スパイスガーデン内でランチを摂ったが、ガイドの説明の効用あらたかで、天然無害の天然のスパイスを売店で競って買い求めている。

●バティック工場と宝飾店



—伝統的なバティック工場—



—お土産に“ブルーサファイア”を！—



●ペラデニア植物園

広大な敷地の植物園にはスリランカ産、熱帯産、外国産と分類された樹木に覆われていた。



—ペラデニア植物園の入口で—



—美智子妃殿下お手植えの木の下で—

常夏のスリランカでは、全ての樹木が常緑で果実も実り放題である。ココナツ、マンゴー、パパイヤ、パイナップル、バナナ、等々、恥ずかしながら、どの果実がどの木になっているか知らない始末である。シリさんの解説で今回、少しは利口になったようである。



—ヤシの実/タンブラ寺院の菩提樹の木の下で—

—マンゴーの実/...にも実がなる(キャンディ)—

●名利・仏歯寺

インドからの侵略者により南下を続けた“シンハラ王朝”の最後の王都がキャンディである。

仏歯寺はキャンディ湖畔にあり、紀元前6世紀にインドで仏陀(お釈迦さん)を火葬にした際に仏歯を取り出し、その後4世紀にセイロンへ持ち込んだという。

日本から寄贈された梵鐘もあった。



—仏歯寺の八角形のお堂の前で—

—寺院は夜明けから黄昏まで開門され自由に参拝—

●宮廷舞踊キャンディアダンス



—キャンディアダンス—

—火渡り儀式と火食いダンス—

宿泊の“ランドホリー・リゾート”は山の上にあるホテルで小型リムジンに乗り換えて向かった。傾斜地に建つ瀟洒なホテルで夜景も、朝の眺めの虹の色も抜群であった。

遅くなった夕食の場には、トリオの“Golden Birds”の実演があり盛り上がった。高橋さんがチップを徴収して回った上、旅の記念にCDを買ったので彼らも満足だっただろう。



—“Golden Birds”演奏/ランドホリー・リゾートの前で—

第5日;11月30日(金)

《キャンディ⇒ヌワラエリヤ⇒コロombo》

午前: キャンディからヌワラエリヤ観光へ。(約2.5時間)

午後:ヌワラエリヤ観光(紅茶農場や本場のセイロン紅茶を精製するセイロンティー工場)。ジャングルで親を失った象を養護する“象の孤児院”を見学した後、コロomboへ。

宿泊:ホテル・ヒルトン・コロombo(コロombo)

●ヌワラエリヤ観光(紅茶農場や本場のセイロン紅茶を精製するセイロンティー工場)



—セイロン紅茶を精製する工場—

●象の孤児院

スリランカは今なお野生の象も多く、“夜は出歩くな!”と戒められた。野生の象の水浴び、人を乗せて歩く飼育している象、母象からはぐれた小象を飼育している“象の孤児院”を訪問した。川での水浴びと、それから戻る30数頭の象の行列の風景は圧巻であった。



—孤児院、飼育、野生の象の3態—

第6日;12月1日(土)

《コロombo》

午前:コロombo市内観光(カラフルな彫刻やレリーフで彩られたヒンドゥ寺院、市民憩いの場ゴール・フェイス・グリーン、ペッター地区、市庁舎や各国大使館などが集まるシナモンガーデン地区など)。

夜:スリランカ航空で帰国の途へ。

●コロombo市内観光

ホテル横の旧国会議事堂、カラフルな彫刻のヒンズー寺院、市民憩いの場、市庁舎や各国大使館などが集まるシナモンガーデン地区などを見学して、最後のランチもカレーで、シリさんの会社の社長さん夫妻が挨拶に来てお土産の紅茶をいただいた。

“Dutch Hospital”のショッピングモールで買い物と休憩を楽しんで空港へ向かった。

空港では梅田さんからシリさんへの感謝と、日本・スリランカの友好が続くことを願いお別れの言葉とした。



—コロombo港—



—コロombo市内観光の数々—



—コロombo市内観光の数々—

—空港でのお別れの挨拶—

第7日;12月2日(日)

午前:帰路は偏西風に後押しされて2時間も早く成田空港着。お疲れ様でした。

あとがき

夫妻での参加を含めて8人のご婦人の参加で華やいだ雰囲気ではあったが、6時モーニング・コール、7時半出発、19時ホテル着、19時半~20時夕食という、連日のタイトなスケジュールに、そこそこの高齢グループとしては厳しい環境にも耐えた有意義な研修旅行であったことを報告したい。

中国の“一路一帯”の“負の一面”が南部のハンバントタ港、コロombo港の開発等で色濃く出始めているというのが他事ながら心配である。

改めて、研修を受け入れてくれた、ジェトロのコロombo事務所殿、及び湖北工業、KOHOKU LANKA(PVT)LTD 殿に感謝を申し上げます。

(文責 島 亨)